

陽光に輝く，礼文船泊湾

礼文町

写真撮影位置は，海岸砂丘の上を通る道々106号上にある（図-1）。



図-1 礼文船泊湾周辺の地形図. 赤丸がおおよその撮影位置。

同様に Google Map 上に撮影位置を示す（図-2）。

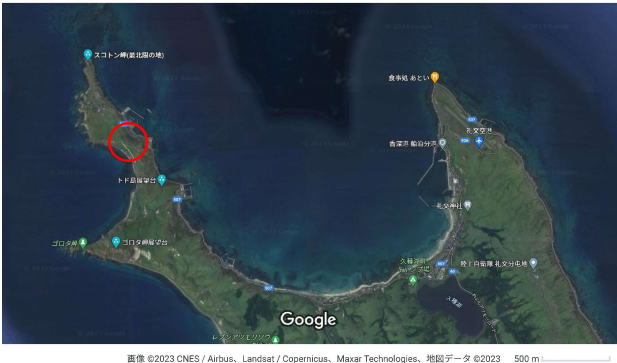


図-2 周辺の GoogleMap と写真撮影位置（赤丸）。

礼文島北部の地質は，白亜紀の礼文層群，新第三系，第四紀などからなる（図-3）。

図-3 に見られるように，地質構造は北に傾斜する軸を持つ向斜構造となっている。このことが，地形にも現れており，船泊湾とそれを取り囲むカニの爪の様な東西の岬（おそらく基盤の硬い礼文層群に支配されていると考えられる）。

また，植村（2000）は，礼文島の海成段丘の高度分布から，東あるいは東北東軽どうしてい

るとしている（図-4）。

サロベツ原野は宗谷丘陵の西側日本海沿岸に発達する沖積平野である（図-3）。

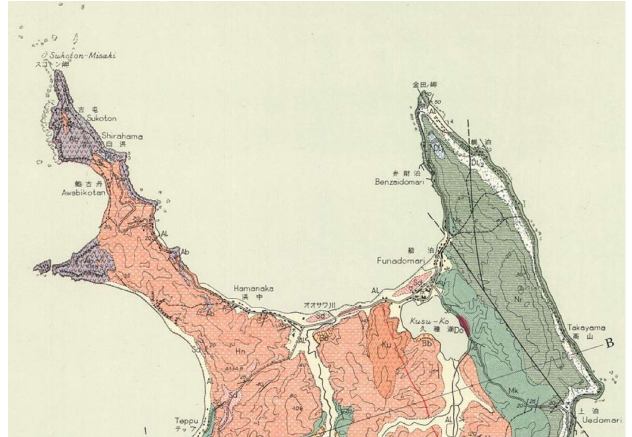


図-3 礼文島北部の地質図（長尾他，1963）。

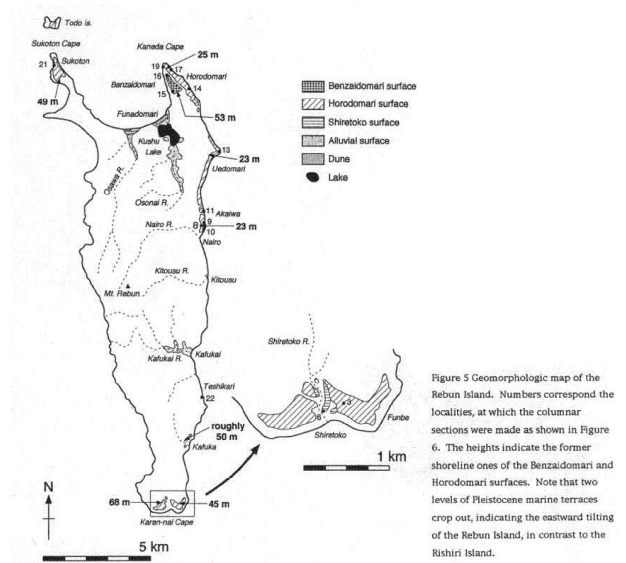


図-4 礼文島の地形学図（植村，2000）。

船泊湾の中央から西側には，新第三系が分布している。礼文島の新第三系の層序は島の北部と南部で不明なところがあった。これは，北部と南部の新第三系の分布が中央部で分断され重なるところがないことも原因となっていた。近年，化石による検討や，火山岩類の放射性年代測定により整理された（NODA・HOYANAGI，1993，など）。

このうち、湾中央部から西側に分布する硬質頁岩を主体とする浜中層（新第三系の最上位）では、地すべりが多数形成されている。ここでは多くの地すべり対策事業が実施されている。

参考文献

長尾捨一・秋葉力・大森保（1963）；5万分の1地質図幅「礼文島」および同解説書。北海道開発局，43p.

植村岳雪（2000）；利尻島・礼文島の海成段丘。利尻研究，Vol.19,pp67-78.